高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 138 号
2015.8.15
高原の自然館

「苅尾（かりお）」とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが，地元の人達は親しみをこめて
「かりお」の名前を使っています．

もくじ

おしらせ

ー高原の自然館の無料開放について

活動報告

ー霧ヶ谷湿原 夏の生き物観察会
ーブッポウソウの観察会
ー夏休み親子観察会
ー滝山川の水生生物観察会

観察会案内

ー深入山の植物観察会
ーせどやまの植物観察会（秋）
ー霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）
ー霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

おしらせ

●高原の自然館の無料開放について

8月31日まで，高原の自然館はどなたでも入館無料となっています．

この機会に是非，八幡の自然に気軽に触れられることができる，高原の自然館にお立ち寄りください！！

生態展示として，アブラボテやタカハヤ，環境省のレッドデータブックでは，絶滅危惧II類に指定されているカスミサンショウウオや，ニホンヒキガエルのどんべえくんが，皆様のお越しをお待ちしております．

自然に関するスタッフへの質問などもお寄せください．

観察会報告

●霧ヶ谷湿原 夏の生き物観察会

開催日時：2015年7月5日（日）9:30

講師：岩見潤治・大竹邦暁・内藤順一・和田秀次

前日がものすごい雨だったので天気を心配していましたが，ほどよい薄曇りとなった当日，高原の自然館に4名の参加者が集合しました．今回は「生きもの観察会」なので，植物の専門家である大竹先生と和田先生，昆虫の専門家である岩見先生，両生類の専門家である内藤先生と4名の講師の先生を迎えての開催です．先生4名に参加者4名という，とても贅沢な観察会となりました．

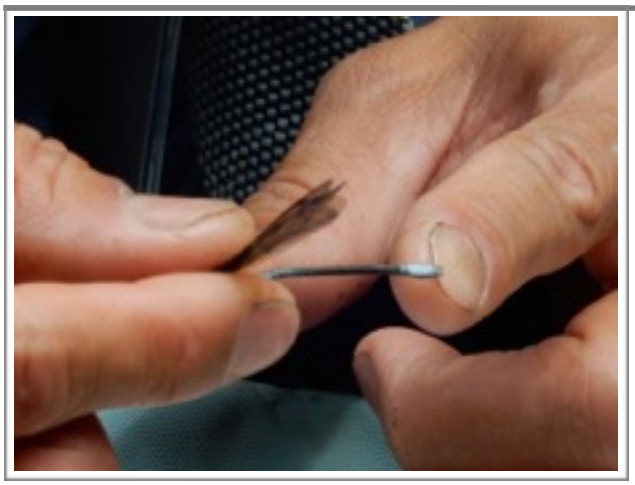
自然館前で観察会の目的やおおまかなスケジュールを確認したあと，早速歩いて霧ヶ谷湿原方面に出発しました．

やはり自然観察会に参加される人たちなだけあり，皆さん目ざとく様々な生きものたちを見つけ出します．「あ，蝶々がいる」「この花はなんですか？」と，少し歩くたびに生きものを見つけては，先生方を質問攻め．先生方も一つ一つ丁寧に説明してくださり，マムシグサのオスとメスの見分け方（花に穴が空いていないほうがメス）や，カシワとナラガシワの葉のつき方の違い（ナラガシワには葉柄がある），スジグロシロチョウは匂いを嗅ぐとレモンの匂いがするという面白い雑学も教わりました．内藤先生が見つけた絶滅危惧種のスナヤツメの幼生や，ブチサンショウウオの幼生も観察しながら，霧ヶ谷湿原への道を歩いていきました．湿原に行くまでの道だけでも，植物はもちろん，キノコや昆虫，水生生物とのたくさんの生きものを見ることができ，湿原での出会いに期待が膨らみます．今回のメインフィールドである霧ヶ谷湿原について，早速お出迎えをしてくれたのは，たくさんのヒメシジミと，ヒロシマサナエでした．ヒメシジミは広島県のレッドリストでは絶滅危惧 II類に指定されている珍しいチョウです．ヒロシマサナエは八幡で発見され，中国山地の限られたところにしか生息していない，やっぱり珍しいトンボです．このような珍虫を普通に見ることができる霧ヶ谷湿原の自然の豊かさに感動を覚えました．昆虫以外にも，クサレダマやミクリなどのたくさんの植物，湿地帯に生息するサンショウウオであるカスミサンショウウオの幼生にも出会うことができました．

様々な生きものに出会える霧ヶ谷湿原の大切さを身にしみて感じた観察会となりました．
［まえだふさ］

さっそくチョウを捕まえた．

先生のお話をしっかりと聞く．



トンボの雌雄の見分け方を教えてもらう．

法具の三鈷杵に似ているから「サンコタケ」．

時が経つのを忘れてじっくり観察．

ヒロシマサナエとヒメシジミの2ショット！

カスミサンショウウオの幼生もいた．

【みなさんの印象に残った物】

「ヒメシジミをたくさん見ることができた」「マムシグサにオス，メスがあること」「レモンのちょうちょ」「ヒメシジミ，スナヤツメ，ミクリ（ヤマト，ナガエ）」「スジグロシロチョウを手に取ることができた．レモンの香りがした」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「講師の方が多種の専門家だったので幅広く話が聞けてよかったです」「ぜいたくな観察会でした（2）」「専門の先生が多く，植物，昆虫，両生類と詳しく教えてもらってよかった」

観察会報告

●ブッポウソウの観察会

開催日時：2015年7月12日（日）9:30

講師：上野吉雄・松田賢

曇天模様の当日，飛び入り参加も含めて合計18名の参加者が，芸北文化ホールへと集まりました．

まずは文化ホールで鳥の専門家である上野先生と松田先生の講義をしっかりと聞きます．ブッポウソウは繁殖のために初夏に日本に渡ってくること，日本だけではなく南半球のオーストラリア大陸北部などでも繁殖していること，西日本と東日本では営巣する場所が違うこと，ブッポウソウが食べているエサなど専門的なこともしっかりと教わることができ，勉強になりました．

講義が終わった後はお待ちかねの野外での観察です．今回は事前を目星に付けていた2ヶ所の巣箱を観察しました．

最初の観察場所で，ブッポウソウに会えるかどうかとドキドキしながら，双眼鏡やフィールドスコープのピントを巣箱に合わせていたときでした．「親鳥が来たぞ！」との上野先生の声で，先生が指す方向を見てみると，翼の裏の白い模様が目立つ，青緑の美しい鳥が上空を飛んできました．待ちに待った本物のブッポウソウです！たくさんの人が見学していていつもと雰囲気が違うからか，何度か巣箱の周りを行き来していましたが，エサをくわえて巣箱に入る瞬間も観察できました．

2ヶ所目の巣箱で観察したのは，少し不思議な光景でした．親がエサを巣箱まで持ってきてもヒナにあげず，口にエサをくわえたまま巣箱から離れて近くに止まって待つ，という動作を何度も繰り返していました．上野先生の解説によると「もう巣立ち間近のヒナがいて，親が巣立ちを促すためにわざとエサを与えず，エサで釣っている」ということで，そんな珍しくも貴重なシーンを見ることができるとはなんとタイミングがいいことか！と感動しました．

今回の観察会では，2ヶ所とも親が何度も巣箱を行き来するのを観察し、ブッポウソウの綺麗な姿をしっかりと目に焼き付けることが出来ました．今年巣立つヒナたちも，この芸北に無事に戻ってきて将来的にここでお父さん、お母さんになってくれればいいなと思った観察会でした．［まえだふさ］

日本のブッポウソウの分布図を真剣に見つめる参加者．

小雨の降る中，親鳥の姿をじっと待つ．

親鳥が巣箱に帰ってきた！赤いくちばしと足，翼の白模様がとても目立つ．

エサを与えずに，そのまま飛び去った親鳥を観察する参加者．

2箇所目の観察場所では雨もほぼ止んできた．

巣立ち間近らしく，エサを咥えて巣箱に頭を突っ込むが，エサは与えない親鳥．

【みなさんの印象に残った物】

「しっかり姿を見ることができたこと」「巣立ちを控えた親の仕草！」「ブッポウソウを見れたこと（2）」「ブッポウソウが近くで見れたこと．勉強会はとても面白かった．」「ブッポウソウが目視出来たので嬉しかった．」「初めて姿を見て感動しました」「日本国内のブッポウソウ分布の内訳」「ブッポウソウが見れたことです」「ブッポウソウが見られた」「飛ぶところが見れた」「ブッポウソウの飛ぶ姿がなんども見られたこと」「巣箱の役割」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「ブッポウソウの保護活動についての話が聞けてよかったです．とても楽しかったです」「しっかり見れたこと」「本物を間近に見れてよかったです」「又，来年来たい」「北広島町の自然に感謝です」「きょうは来て本当によかったです」「大変楽しく勉強になりました」「楽しかったです」「見ることができると思ってなかったので感動しました」「意外に大きく近場で見れた」「家の周りにもいるんですが，あんなにゆっくり見たことがありませんでしたので感動しました」「鳥が観察できてカンゲキ！！」

観察会報告

●夏休み親子観察会

ー水辺の生きものを観察しよう！ー

開催日時：2015年7月20日（月）9:30

講師：佐久間智子・内藤順一・松田賢

数日前の台風の影響がまだ少し残る中，高原の自然館に4家族17名の参加者が集まりました．今回の講師である佐久間先生，内藤先生，松田先生の紹介の後，早速今回の舞台となる霧ヶ谷湿原へと出発しました．

霧ヶ谷湿原に到着後，講師の先生方に今日の大まかなスケジュールと，水の中の生き物の捕まえ方，必ず守る，安全に水遊びを楽しむためのルールを教えていただいたき，内藤先生率いる上流班と，松田先生率いる下流班に分かれて水生生物採集の開始です

「おったー！！」「捕まえたよ！」早速あちこちで歓声が歓声があがりました．子供たちはもちろん，大人も脛あたりまで水に浸かって，生き物を探しています．気温は24度，水温は17度と決して温かいといえる温度ではなかったのですが，皆さん水の冷たさなど全く気にしていないようでした

水に入って30分後，陸に上がってそれぞれの班で捕まえた生き物を種類別に分けて，どんな生き物がいたのか確認しました．

特に目立ったのは，大きなオニヤンマのヤゴ！なんとバケツの中で，一緒にいた小魚（タカハヤ）を食べていたそうです．弱肉強食を間近で確認した，とてもいい機会となりました．他にも，水の中のイモムシのようなマダラガガンボの幼虫や，カゲロウの仲間，トビケラの仲間，カワゲラの仲間，魚のタカハヤなど，たくさんの水生生物を発見することができました．

今回の観察会は，元々の小川である上流と，湿原再生事業によって，自然に近い状態に人工で戻された下流の二つのポイントで生き物を採集し，上流と下流では生き物に違いがあるのかを確認する目的もありました．生き物の種類には特に大きな違いはなかったですが，上流の方が個体数が多く、大きいものが多かったです．これは下流の川底の構造に関係があるのではないかということでした．

たくさんの水生生物を確認したあとは，みんなで紙コップを使って生態系ピラミッドを作り，「一種類の生物がいなくなったらどうなるか？」ということを目で確認しました．紙コップを一つ抜くと，ガラガラとピラミッドが崩れました．たった一つの種がいなくなっても，生態系が大きく崩れてしまうということがわかりました．

子供たちも楽しみながら，弱肉強食や生態系について，しっかりと学んでくれたのではないかなと思います．［まえだふさ］

待ちきれない！意気揚々と移動する参加者．

水に入る前に，注意事項や捕まえ方を真剣に聞く．

大人も子供も一所懸命！

紙コップで生態系を再現．たった一つ欠けただけでも，バラバラと崩れてしまった．

捕まえた生きものを種類別にわける．この子はどれといっしょかな？

綺麗な水の象徴する，ヘビトンボの幼虫もたくさんいた．

【みなさんの印象に残った物】

「オニヤンマはでかかった」「オニヤンマのヤゴが見れたこと」「広島市内と比べるととても涼しく水がとても冷たかったこと」「ママより先に生き物を見つけれた」「オニヤンマが大きかった」「冷たい川に入り実際に生き物を捕るのが楽しかったです」「つかまえかたがむずかしかったです」「上流と下流では生物に違いがあったこと」「普段見れない生き物が多く見れたこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「水遊びができて楽しかった」「この川の環境や生態系がわかって良かったです」「川の水が冷たかった」「普段はみない小さな昆虫がみれて良かった」「自然の中で貴重な体験ができました」「オニヤンマが魚を食べていました」「楽しかった」「楽しく採集，観察できた」

観察会報告

●滝山川の水生生物観察会

開催日時：2015年7月26日（日）9:30

講師：内藤順一

台風が近づき天候が危ぶまれましたが，風は強いもののお天気に恵まれ，子ども5人を含む13人で，滝山川の水生生物の観察を行ないました．前回までは「カワシンジュガイ探検隊」という観察会でしたが，今回からは子どもたちに川の生物を沢山見つけて楽しんでもらおう，と「水生生物観察会」となりました．内藤先生から，川の脇でどのように生物をつかまえるのか，レクチャーを受け早速，網やのぞきメガネを持って，川のなかへ．

葦の下の泥を網でかきながら，ドジョウ，アブラボテ，アカハライモリ，タカハヤやカエルを見つけ，観察しました．アブラボテは，尻びれのふちが黒いのが特徴．機械油の黒っぽさが名前の由来だということを教えてもらいました．残念ながら今回は，カワシンジュガイとオオサンショウウオの幼生は見つけることが来ませんでしたが，内藤先生が事前準備で見つけてくださったカワシンジュガイを観察することができました．推定，30年･50年くらいのカワシンジュガイでした．貝がとても大きいことに驚きました．また，カワシンジュガイと思われる斧足(ふそく)の部分を見つけた男の子がいました．

今回の観察会は，水生生物の知識がある子供たちが多く，また一段と川の生き物たちへの興味が増したことでしょう．川の水が冷たく，夏の暑さにはちょうど良い，観察会となりました．[よしだたえこ]

※今回は，今年の4月から1年間芸北地域で活動する「みどりのふるさと協力隊の吉田紗子さんに観察会をお手伝いいただきました．

内藤先生が実演する，生きものの捕まえ方を真剣に見つめる子どもたち．

老若男女関係なく，川の中で格闘中！

バケツの中見せてー！！

箱メガネで水中観察．水の中はどんな感じ？

捕まえた生きものを種類別に分けて，即席のプチ水族館に．

水中もカメラでパシャ．

本物のカワシンジュガイ！川底につける足（斧足）を必死で伸ばして川底を探し中．

天気がいいので，川の中でも気持ちイイ♪

【みなさんの印象に残った物】

「魚を取ったこと」「たくさんいろんなお魚がいて，びっくりしました」「カワシンジュガイとアブラボテを見られたこと」「タナゴの数が多い」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「楽しかった」「きれいな水があって，住みやすい環境にしていきたいです」「とてもたのしかったです（2）」

観察会に参加される時には，次のようなものを持参してください．カメラ，双眼鏡，ルーペ，図鑑などもあれば，楽しいと思います．

基本セット：山を歩ける服装，雨具，飲み物，おやつ，筆記用具，メモ帳
作業セット：作業ができる服装，長靴，軍手，雨合羽，飲み物，おやつ

●深入山の植物観察会

開催日時：2015年8月29日（土）9:30
集合場所：いこいの村ひろしま　研修室
講師：大竹邦暁，和田秀次
定員：40名
準備物：基本セット，お弁当
参加費：一般=300円，賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

毎年の山焼きによって草原が維持されている深入山と，近隣にある雲月山では，植生の違いはあるのでしょうか．座学を行った後，ゆっくりと歩いて観察します．頂上で昼食となりますので，お弁当をご準備ください．

●せどやまの植物観察会（秋）

開催日時：2015年9月13日（日）9:30
集合場所：芸北文化ホール・第1研修室
講師：佐久間智子・中島康弘
定員：30名
準備物：基本セット
参加費：一般=300円，賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

せどやま（家の裏山）や田んぼの周りを歩きながら，身近な場所に生育する植物を観察します．事前学習の後，車で現地に向かい，林の中や林の縁，道ばたや田んぼの畦などをゆっくりと観察します．

●霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

開催日時：2015年9月19日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信
定員：30名
準備物：作業セット
参加費：無料

夏に続いて，秋も植生調査を行います．調査を続けることで，湿原がどのように変化しているかを知る大切なデータとなります．講師の先生から植物の特徴を解説していただけるので，楽しみながら調査できます．初めての方もお気軽にご参加ください．

●霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時：2015年9月26日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・内藤順一・松田賢
定員：40名
準備物：基本セット
参加費：一般=300円，賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

涼しくなり始めた霧ヶ谷湿原では，どんな動植物が見られるのでしょうか．マアザミやマツムシソウ，赤トンボの仲間やカンタンなど，秋の昆虫や植物を，講師の先生と一緒にゆっくりと歩きながら観察してみましょう．

梅雨が明け，台風が過ぎたとたんに真っ青な大空が頭上に広がる日々が続いています．八幡高原もただいま夏真っ盛り．セミのBGMが心地よい（？）昼間でも，風と影があれば比較的涼しくてびっくり．さすがは標高約800mの高原ですね！！[まえだふさ]

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒731-2551
広島県山県郡北広島町東八幡原10119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/
staff@shizenkan.info